

血液内科を受診している「造血細胞移植および細胞治療の全国調査」に
同意いただいた患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、すでに個人が識別できない状態となったデータを用いますので、情報利用の提供を希望されない場合でも受付することができません。この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	急性骨髄性白血病に対する同種移植前処置への低用量全身放射線照射追加の意義
研究機関名及び 研究機関の長 (試料・情報の管理 責任者)	愛知医科大学医学部 医学部長 笠井謙次
研究責任者	(担当科)血液内科 (職名)准教授(特任) (氏名)水野昌平
試料・情報の利用目的 及び利用方法	<p>〔利用目的〕 急性骨髄性白血病患者さんに対する移植前処置として全身放射線照射(TBI)を含む治療がしばしば使用され、特に強度を弱めた前処置において低用量のTBIは血液回復を高める効果が期待されています。しかし、どのような急性骨髄性白血病患者さんやどのような造血細胞移植ソース(骨髄移植、末梢血造血幹細胞移植、臍帯血移植)に、低用量のTBIにメリットをもたらすか、まだ解明されていない部分もあります。そのため、日本の急性骨髄性白血病で同種造血細胞移植を受けた患者さんのデータを利用して、低用量のTBIの効果を検討する研究を行います。急性骨髄性白血病患者さんの移植前処置の適正化を考える上で重要な情報が得られることが期待されます。</p> <p>〔対象となる患者さん〕 2000年から2021年の間に同種造血細胞移植を受けた急性骨髄性白血病患者さん 移植時の年齢が16歳以上 日本のデータは、「造血細胞移植および細胞治療の全国調査」に同意いただき、日本造血細胞移植学会一元管理プログラム(TRUMP)データに登録されている方になります</p> <p>〔研究期間〕 研究実施承認日 ~ 2028年3月31日</p> <p>〔利用方法〕 日本のTRUMPデータを解析します。全生存率、再発率、非再発死亡率、好中球生着率、血小板生着率、急性GVHD発症率、慢性GVHD発症率を低用量TBIの有無により比較し解析します。</p>

利用又は提供する試料・情報の項目	情報：初回自家造血細胞移植を行った骨髄腫患者の治療、治療効果、生存期間など。
試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	非該当
提供する試料・情報の取得の方法	非該当
提供する試料・情報を用いる研究に係る研究機関名・研究責任者名	非該当
利用する者の範囲	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部内科学講座（血液内科） 担当者：（職名）准教授（特任）（氏名）水野昌平 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 23540）